

平成21年度の反省及び平成22年度の取り組み

平成21年度は、全体で計画に対し達成率78%となる61,790千円の経常利益となりました。木材価格は一時に比べて若干回復したものの相変わらず安値が続き、製品荷動きも悪いことから特に加工部門においては厳しい経営環境でした。

平成22年度も厳しい経営状況になる見込みですが、62,023千円の利益確保を目指します。

各部署の反省及び取り組み

21年度反省

22年度取組

指導企画課

購買部門の取扱数量は年々減少しておりますが、組合員の皆さまがお求めになる商品への迅速な対応を心がけ、また、優良造林苗木や林業用資材、椎茸資材の斡旋に努めました。

組合員の皆さまのニーズに応じた商品をご用意して、より多くの方に利用して頂きたいと考えております。また、昨年度に引き続き新商品開発のチャレンジをしていきます。

活性化センター

久万林業活性化プロジェクトを基本として、積極的に組合員様の所有山林の管理を行いました。年間620haの計画でありましたが、実績479haで目標未達成となってしまいました。

調査、営業、管理の専門体制に再編成し、業務の効率化を図ります。間伐の低コスト化、木材の安定供給、組合員様からの委託管理の推進を図り720haの達成を目指します。

森林整備課

国有林請負事業は計画を下回りましたが、所有林及び一般民有林事業は計画を大きく上回り、原木市場については父野川事業所や久万事業所への原木供給に貢献いたしました。

今後も活性化センターとの連携をより密にして事業を進め、組合員の皆さまの所得向上のために、低コスト施業の確立に向けて精一杯努力してまいります。

久万市場

原木単価が低迷して厳しい状況が続きますが、2年連続70,000㎡を超える取扱数量を確保できた大きな要因は、活性化センターの事業量の拡大による搬出量の増加がありました。

今年度は74,000㎡の取扱数量を目指し、大径木に対応できる自動選別機の導入を実施する予定です。集荷を兼ね作業現場へ足を運び造材指導等を積極的に行います。

久万事業所

生産量の増大及び製造コストの削減に取り組み収支は改善できましたが、歩留りが低下したことで製品品目によっては欠品率が増加したことで等級区分が悪くなり平均単価の低下を招きました。

副製品を特定化して生産することで安定した歩留りの確保を目指します。また、乾燥手法の開発に取り組み、製品の割れ等の発生率を抑制することによって最終歩留りの向上を図ります。

父野川事業所

売れにくい製品の木取りを変更したことで歩留りが低下し、集成材は生産量を確保することが困難でした。機械施設は耐用年数が過ぎたものや故障等で稼働率が低下するなど課題が生じました。

歩留りが向上する加工品及び採算が合う集成材の商品開発に取り組みます。機械施設は日々のメンテナンスを充実させ、更新が必要であれば早期に対応することで生産量の確保を目指します。